

## 塾生の自覚を促す武者語りの充実を目指して

- 何のために生きるのか、何のために働くのか、何のために進学するのか、  
進学して何を学ぶのか、自分が死んだあと後の世に何を遺<sup>のこ</sup>せるか、etc -

開倫塾  
塾長 林 明夫

冬期講習会の初日と最終日は各々 1 時間ずつ、講習会の授業中は毎日 3 分間以上武者語りをし  
て、塾生の自覚を促し、学力を飛躍的に高めようとの開倫塾講師の社会的義務を果たすために何を  
語ったらよいのか。

(1)何のために生きるのか、何のために働くのか、何のために進学するのか、進学して何を学ぶ  
のか、自分が死んだあと後の世に何を遺<sup>のこ</sup>すことができるのか(金か、事業か、思想本・作品か、  
教育か、生き方が)

(2)本や新聞を熱心に読む人は学力が高い、読まない人は学力が低い。本を読んで思慮深くなり、  
新聞を読んで批判的思考能力を身につけた人は学力が高い。「学び方を学ぶ能力」を身につけ  
ている人は学力が高い。

(3)「学習の3段階理論」を正確に身につけよう。

「理解」とは、「うんなるほど」とよくわかること。辞書を使いこなそう。

「定着」とは、一度「うんなるほど」と「理解」したことを正確に身につけること。

(ア)何も見ずにスラスラ言えるようになる

(イ)何も見ずに正確に書けるようになる

(ウ)問題を見た瞬間に条件反射で答えが言えるようになる

定着のための3大練習

<音読練習>

<書き取り練習>

<計算・問題練習>

「応用」とは、「合格できるだけの得点ができること」「社会で役に立てること」

(4)学校や開倫塾で学んだことは、すべて役に立つ。受験勉強は、世の中に出てすべて役に立つ。

(5)自分の行きたい学校が「一流校」。受験生は来年、全員一流校に合格しよう。非受験学年は1  
日も早く自分の行きたい学校、「一流校」を決め、「一流校合格」に向けて全力を尽くそう。

(6)英検に全員合格しよう。英語を身につけて世界にはばたこう。

以上のような内容を、熱く熱く語りに語ることで、塾生の自覚が生まれます。

「学習(教育)の成果を決定する要因」は、「本人の自覚」と「教師の力量」です。「教師の力量」には、「本人の自覚」を促すことも含まれます。

先生としてできることは何か。それは、塾生の目を輝かせることです。自覚を促し、塾生の目を輝かせてこそ、本人がやる気になり、学力を向上させます。

「武者語り」の時間を活用して、語りに語ってこそ開倫塾の講師です。語る内容は授業前に十分考え、必ずメモを取り、取ったメモを授業前に完全に頭にたたき込んでから「武者語り」を試みましょう。

語り終わったら、感想を朱書きしファイルをしておくことも大事です。先生としての成長の記録となるからです。

大切なことは繰り返し、繰り返し武者語りすること。語った内容は校舎に掲示したり、コピーして塾生や保護者、地域社会の皆様にご覧いただき広めること。

よいことを広めるのに遠慮は要りません。開倫塾のホームページの中にある私のコーナーも、よろしかったら参考にしてくださいね。

「チョーク一本の教育改革」、これが開倫塾の教育改革です。

以上